消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1.　事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2.　体験した事例の名称	山間部において道迷い者の救助活動中、救助者が道迷いのおそれがあった。
3.　体験した事例の中心的要素	登山道から外れ、樹林帯に進入し道迷いで下山出来なくなった要救助者の検索中、救助者が、樹林帯に進入した際、見通しが悪くなり、自己の位置確認が困難になった。幸い、現場は小規模の低山であり、要救助者も登山道より比較的近い位置（100m前後）で発見できたため、道迷いには至らなかったが、要救助者が、更に山深くまで進入してしまっていたら、2次災害を招くおそれがあった。
4.　体験した事例の原因・理由	1. 登山道から樹林帯に安易に進入し、経路に目印を付票することを怠ったこと。 2. 要救助者の発見を急ぐあまり、コンパス・GPS等で位置確認を行わなかったこと。 3. 無線及び携帯電話の不感地帯であり、指揮本部及び中継隊との交信が出来なかったこと。 4. 冬期であり、日没が早いため、要救助者の発見を急いだこと。

【体験した事例の直接的原因について】　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1.　体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。（誤った手順を取った等）

【体験した事例について】　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1.　発生日時	平成28年12月2日 午後1時頃
2.　発生した当時の天候	晴れ
3.　発生した活動現場	屋外：低山のハイキングコースから外れた樹林帯
4.　体験した事例の種類	
5.　事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6.　どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：救助者が遭難（道迷い）するおそれがあった。
7.　事例体験時の活動	救助現場活動中期
8.　（7の活動中）どのような作業中に発生したか	人命検索・救出
9.　同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○当事者A	年齢[43]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23] 年、階級[司令] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[40]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19] 年、階級[司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[21]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他（当事者が4人以上の場合）	

11．事例発生の経過。　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

	誰が（何が）	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	登山道から樹林帯に進入した	
経過2	当事者B	同上	
経過3	当事者C	同上	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

現場周辺の地理を知っていた その他：要救助者の位置が比較的登山道に近い位置にいた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

〇装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

〇活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

〇指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

〇その他

l. その他の理由があった。

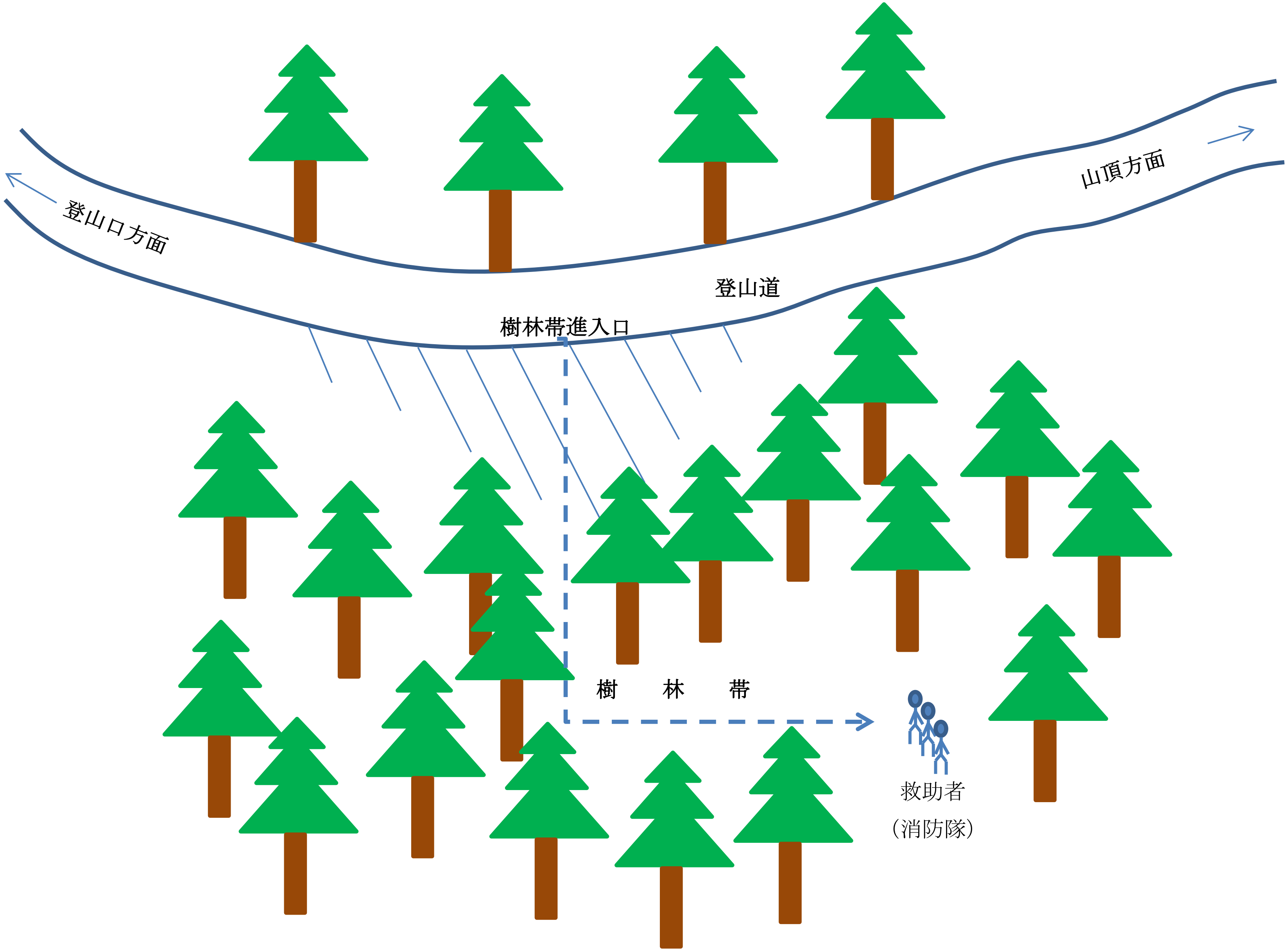
【事故発生後の取り組みについて】　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

〇注意力欠如、焦り等の対策について

〇装備・資機材の対策について

〇活動環境の対策について

〇指揮・情報伝達の対策について


登山口方面
山頂方面
登山道
樹林帯進入口
樹　林　帯
救助者
（消防隊）